特色ＧＰフォーラム「へき地教育と教師教育」を開催

平成 19 年 12 月１日（土），本学では，平成 19 年度特色ある大学教育支援プログラム（特色ＧＰ）フォーラムを北海道へき地・複式教育研究連盟の後援を得て，札幌市内のホテルで開催し，大学教職員，へき地校関係者，学生等 70 名が参加しました。

本学では，平成 17 年度から，文部科学省の特色ある大学教育支援プログラム（特色ＧＰ）に選定された「へき地・小規模校教育実践プログラムの開発－地域と未来を開く教師教育－」事業に取り組んでいます。今回のフォーラムは，本学をはじめ，へき地教育を地域課題とする琉球・鹿児島・長崎・和歌山の五つの大学が一堂に会して，また，北海道のへき地校からの提言をふまえて，教師教育の在り方とその教育効果の交流と検証を図ることを目的として開催されました。

当日は，本間謙二学長の開会挨拶に続き，第Ｉ部では，琉球大学山口剛史准教授，鹿児島大学八田明夫教授，長崎大学村田義幸教授，和歌山大学豊田充崇准教授から各大学におけるへき地教育の取組等についての報告が行われました。第 II 部では，本学との国際交流で来日されたザンビア国立大学の H.J. ムサンゴ教授から同国における複式学級の教育改善についての報告があり，続いて，本学におけるへき地教育の取組について釧路校川前あゆみ講師，旭川校幸村敏晴特任講師からの報告，幕別町立途別小学校狩野信也校長，士別市立中士別小学校宮下敏校長から，北海道のへき地校からの提言がありました。

第 III 部では，第Ｉ部，第 II 部の報告・提言をふまえて，テーマである「へき地教育と教師教育」について予定時間を超過するほどの活発な意見交換が行われ，後藤嘉也理事の閉会挨拶をもって盛会のうちに終了しました。

今回のフォーラムでは，へき地校での教育実習のあり方，附属学校における複式学級の問題点，大学と実践現場の連携のあり方など多岐にわたる課題が明らかになりました。今後，へき地教育の実践的カリキュラムの構築など共通課題を通して，本学および４大学の研究交流をいっそう深めていく確認ができたことは大きな成果です。

開会挨拶をする本間謙二学長

活発に意見交換を行う参加者